

第2期多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略

かわら版【令和3年度の取組】



Vol.2

人口減少、急速な高齢化・・・

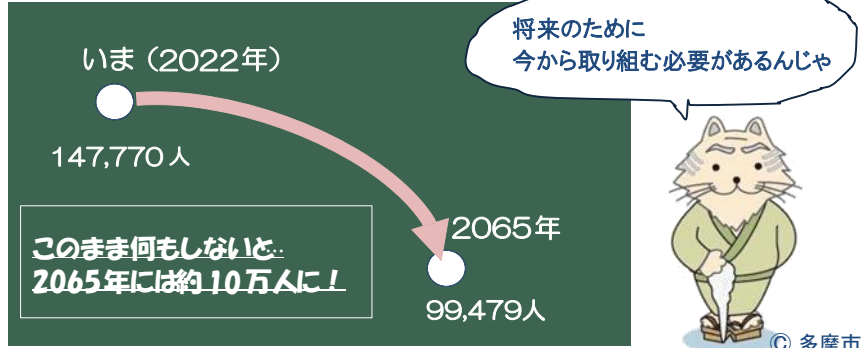
2065年、
多摩市はどうなる!?

6

多摩市の将来は
どうなるのかニヤ!?



にゃんともTAMA二郎



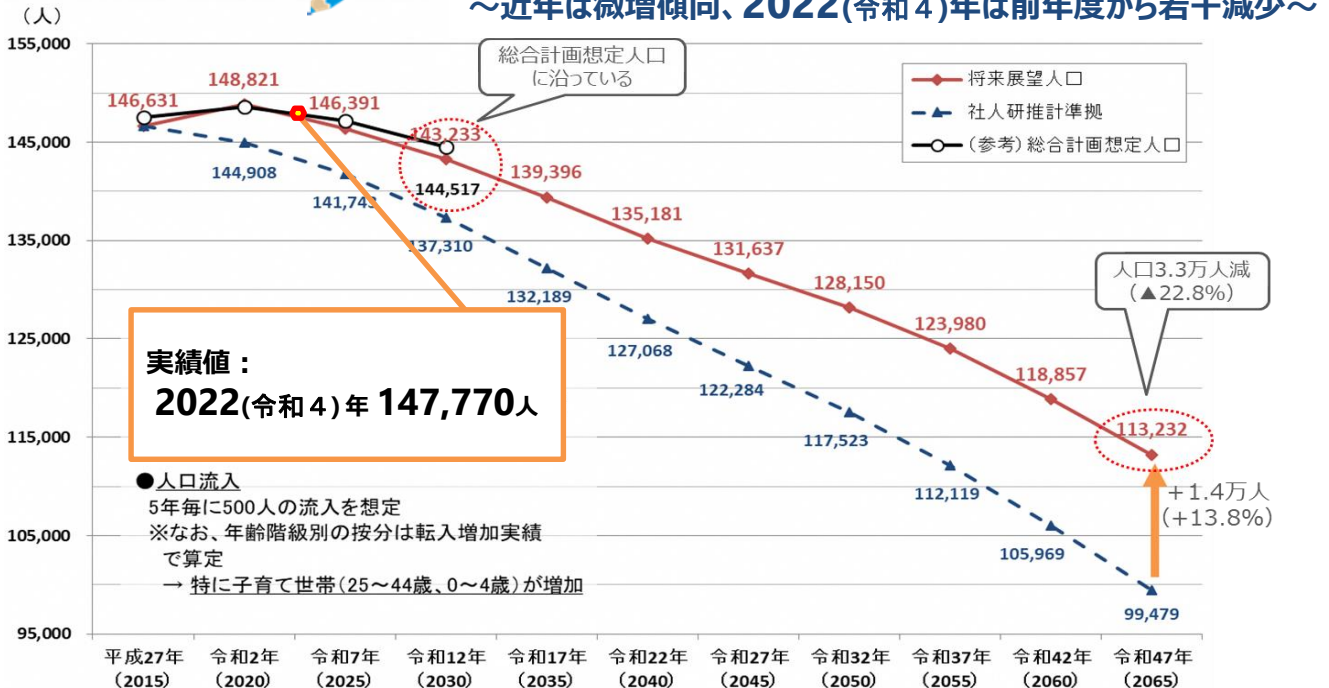
にゃんともTAMA左衛門

多摩市では、「人口減少」や「急速な高齢化」への対応策として「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を令和3年3月に改定しました。日本全体の人口減少が進んでいく中で、多摩市でも、生産年齢人口が減少することで、市税収入が減り、これまでの行政サービスの提供が難しくなるなどの課題が生じることが想定されます。

人口減少を見据え、活力ある地域社会を実現するため、この戦略では4つの基本目標と2つの横断的な目標を掲げています。様々な施策を実施することで、定住人口の増加のみならず、このまちに関わってくれる人「関係人口」を増やしていく取組についても推進します。

また、第2期総合戦略2年目となる令和3年度は、新型コロナウイルスの影響を受けているものの、オンラインなどのデジタル技術を活用し、「ニューノーマル」に合わせて取組を進めました。

多摩市の人口の推移



※各年10月1日時点での人口、出典 多摩市の目標(将来展望人口):国勢調査、実績値(令和4年10月):住民基本台帳人口

将来的には人口減少が見込まれる中でも、多摩市の人口は、大規模マンションの竣工等による転入増により、**微増傾向**にありましたが、過去最高の人口であった2019(令和元)年の人口(148,865人)と比べ、2022(令和4)年の人口は**147,770人**となり、若干ですが減少しました。令和4年度の人口は、社人研(国立社会保障・人口問題研究所)の推計人口を上回り、概ね多摩市の目標(将来展望人口)どおりに推移しています。

令和3年度の実績

学識経験者、市民委員等で構成する「多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討委員会」において、令和3年度の実績について評価いただきました。

■ 基本目標1：多様な働く場・働き方を実現し、安心して働くことができるまちをつくる

数値目標	現状値 (令和元年度)	実績値 (令和3年度)	目標値 (令和6年度)	達成率
①従業員数	60,945人	65,480人※1	61,000人	—
②事業所数 <small>(新規:1,216、廃業:606)</small>	4,718事業所	4,229業所※1	4,720事業所	—
③法人均等割納税義務者数	3,767法人	3,881法人	3,862法人	120% (114/95)

※1 調査方法が異なるため参考値

●出典 ①・②総務省「経済センサス」 ③市町村民税の納税義務者等に関する調（総務省）

多摩市まち・ひと・しごと創生
総合戦略検討委員会からの評価

B

「①従業員数 ②事業所数」は調査方法異なるため、参考値としており、数値目標から成果を測ることは難しいですが、「事業者訪問数」や「創業・ビジネス支援事業参加者数」で目標値を達成するなど、各事業の内容や進捗状況から評価を「B」としました。

トピックス

環境配慮型おうち消費促進業を実施しました！



テイクアウトや、デリバリーの取り組みを応援し、あわせて、巣ごもり消費の拡大により増加しているプラチックのごみの削減にも取り組む事業を行いました。リユース容器バイオマスプラスチック容器を利用する費用の補助や、マイバック等持参にはポイントを付与し、多摩市が提供する啓発グッズと交換する事業を行いました。



多摩産材の箸
(環境に配慮した素材で作成された啓発グッズ)

■ 基本目標2：まちの魅力を高め、これを発信し、多摩市に関わる人を増やす

数値目標	現状値 (令和元年度)	実績値 (令和3年度)	目標値 (令和6年度)	達成率
①20歳～29歳の転入超過人口 (5年間累計・日本人のみ)	△868人 <small>(平成27年～令和元年)</small>	△467人 <small>(令和2～3年)</small>	△500人 <small>(令和2年～令和6年)</small>	93.4%※2 (467/500)
②30歳～49歳の転入超過人口 (5年間累計・日本人のみ)	623人 <small>(平成27年～令和元年)</small>	13人 <small>(令和2～3年)</small>	1,000人 <small>(令和2年～令和6年)</small>	1.3% (13/1,000)
③滞在人口率 (20歳台、休日、1月、14時)	0.91倍 <small>(平成31年1月)</small>	0.96倍 <small>(令和3年1月)</small>	0.95倍	125.0% (0.05/0.04)
④滞在人口率 (30歳台、休日、1月、14時)	1.01倍 <small>(平成31年1月)</small>	1.09倍 <small>(令和3年1月)</small>	1.05倍	200.0% (0.08/0.04)

※2 減少値を留める場合、達成率が高ければ評価は低いものとした

●出典 ①・②住民基本台帳人口移動報告 ③・④ RESAS

多摩市まち・ひと・しごと創生
総合戦略検討委員会からの評価

B

基本目標2は、転入超過人口についての数値は芳しくないものの、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、休日の滞在人口率が向上したことから評価を「B」としました。

トピックス

多摩市の未来を描くブランドビジョンを作りました！

市は様々な市の魅力をPRしてきましたが、個々のニュースが市の価値としてストックされず、明確な市のイメージが構築されていないという課題があり、多摩市ブランドの必要性を認識しました。そこで「多摩市とは」という価値基盤を作り、そこに個々のファクトを積み重ねることで市らしい価値(ブランド)を創るためのブランディングを進めるため、新たにブランドビジョンを定めました。

くらしに、
いつも
NEWを。

ALWAYS NEW FOR LIVING TAMAGIYA

新ブランドビジョン

【評価基準】 ※目標値に対し、1年目は20%、2年目は40%(今回)、3年目は60%、4年目は80%、5年目は100%に達しているかどうかで判断

○評価A: 目標値を達成することができた。(令和3年度の実績が目標値の40%超)

○評価B: 目標値の達成に向けて、概ね進んだ。(令和3年度の実績が目標値に対して、達成度が24%以上~40%未満)

○評価C: 目標値の達成に向けて、順調に進まなかった(令和3年度の実績が目標値に対して、達成度が24%未満)

※ただし、実績値が現状値に対して下回っている場合の達成率の表記は、実績値と現状値の差分をポイント表示している。

■ 基本目標3 : 多摩市で産み、育てたいと思えるまちをつくる

数値目標	現状値 (令和元年度)	実績値 (令和3年度)	目標値 (令和6年度)	達成率
①平成31年1月1日時点と比較した年少人口(毎年1月1日時点)数	17,258人 (参考:令和2年1月1日)	16,343人 (令和4年1月1日) △915人	1,000人減に留める	91.5% (915/1000)
②「多摩市は子育てがしやすいまちだと思いますか」の設問に「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答える子育て期の市民の割合	72.7%	76.3%	75.0%	156.5% (3.6/2.3)

●出典 ①住民基本台帳 ②多摩市政世論調査

多摩市まち・ひと・しごと創生
総合戦略検討委員会からの評価

B

保護者の保育ニーズの高い駅周辺に認可保育所及び小規模保育所の整備を進め、保育枠を確保することで、待機児童の解消に取組みました。また、地域子育て支援拠点の機能強化についても、令和3年度末こどもひろばOLIVEが開業するなど、各事業の内容や進捗状況から評価を「B」としました。

トピックス

パルテノン多摩にこどもひろばOLIVEがオープンしました!

子育て中の親子が遊べるこどもひろばOLIVEがパルテノン多摩4階に令和4年3月27日にオープンしました。

多摩産材で造られた大型遊具のある「わくわくひろば」、多摩中央公園の緑を望むオープンスペース「きらきらひろば」、主に0歳から1歳の赤ちゃんのご家族がゆったり過ごせる「よちよちルーム」があり、また一定の研修を受けた子育てマネージャーに、子育ての悩みなども相談できます。



わくわくひろば

■ 基本目標4 : ひとりでも安心して暮らし続けられるまちをつくる

数値目標	現状値 (令和元年度)	実績値 (令和3年度)	目標値 (令和6年度)	達成率
①65歳健康寿命 (東京保健所長方式・要支援1以上)	男性:82.79歳 女性:83.97歳 (平成30年)	男性:82.92歳 女性:84.31歳 (令和2年)	男性:83.89歳 女性:84.37歳 (令和5年)	男性:11.8% (0.13/1.1) 女性:85.0% (0.34/0.4)
②「あなたは総合的にみて、多摩市は住みよいまちだと思いますか」の設問に「住みよい」「どちらかといえば住みよい」と答える市民の割合	86.7%	87.8%	90.0%	33.3% (1.1/3.3)

●出典 ①東京都福祉保健局 ②多摩市政世論調査

多摩市まち・ひと・しごと創生
総合戦略検討委員会からの評価

B

「自主防災組織数」は目標値を下回りましたが、世論調査による数値目標、「多摩市版地域包括ケアシステムの構築」に関する目標値を達成しており、各事業の内容や進捗状況から評価を「B」としました。

トピックス

あんしんスマホ教室を随時開催しました!

初めてスマートフォンを使う! もう少しスマホを活用したい! そんな方のために、電話のかけ方などスマホの基本操作、アプリの使い方、キャッシュレス決済についてなどの講習会を聖蹟桜ヶ丘や多摩センターなど各事業者の協力の基、さまざまな場所で随時開催いたしました



京王聖蹟SCセンターコート即席会場

■ 横断的な目標 1 : 多様な人材の活躍を推進する

数値目標	現状値 (令和元年度)	実績値 (令和3年度)	目標値 (令和6年度)	達成率
大学・企業等との連携事業、プロジェクト数	26件	32件	35件	66.7% (6/9)

多摩市まち・ひと・しごと創生
総合戦略検討委員会からの評価

A

「大学・企業等との連携事業、プロジェクト数」、「高齢者の就労支援」、「障がい者の就労支援」の令和3年度の達成度は目標を満たしていることから評価を「A」としました。

トピックス

多摩市未来シナリオの調査研究をスタート！

市では、新しいブランドビジョン「くらしに、いつもNEWを。」を具現化するため、「未来洞察(フォーサイト)」という研究手法において先端事案を手掛ける国立大学法人一橋大学と連携し、近未来である10～20年後の多摩市の都市像に関する調査研究をスタートさせました。



ワークショップ状況

■ 横断的な目標 2 : 新たな時代の流れを力にする

数値目標	現状値 (令和元年度)	実績値 (令和3年度)	目標値 (令和6年度)	達成率
新たな技術を活用した企業数、サービス数	—	3件	5件	60.0% (3/5)

多摩市まち・ひと・しごと創生
総合戦略検討委員会からの評価

A

「新たな技術を活用した企業数、サービス数」を着実に増やしていくなど、令和3年度の達成度は目標を満たしていることから評価を「A」としました。

トピックス

多摩30自治体ではじめて、「学童クラブ入所手続き」をオンライン化しました！

市では、令和3年10月から「学童クラブ入所手続き」のオンライン化を始めました。これまでの申請手続きは、申請書類の提出のため来庁しなければならない等の課題がありましたが、オンライン化により、24時間いつでも申請ができるようになりました。

～インターネット申請の説明書～



令和3年度多摩市は市制施行50周年を迎えました

令和3年11月1日に多摩市は市制施行50周年を迎え、基本理念として「市制施行50周年という大きな節目を、全市をあげて祝うとともに、歴史や文化、市民が築き上げてきた功績を見つめ直し、将来の明るいまちづくりのために、このまちに誇りを持ち、まちを愛する心をさらに深める機会とします。」「市民をはじめ、地域、民間企業、各種団体、行政等、ともにまちづくりに関わる様々な主体が連携を行い、活力と創造力に満ち溢れ、光り輝く本市の未来を展望し、更なる飛躍・発展に向かい躍動する契機とするため、市制施行50周年記念事業を実施します。」を掲げ、令和3年度においては、市が主催する事業、市民企画事業などの記念事業および記念誌刊行事業等を行いました。



くらしのたまし
キャッチコピー・ロゴマーク



市制施行50周年記念誌
令和3年12月1日刊行
A4サイズ、220ページフルカラー



埋設されていた記念品



新たな記念品



新たなタイムカプセル

市制施行50周年タイムカプセルセレモニー

令和3年11月3日に永山北公園にて市制施行10周年記念時に埋設されたタイムカプセルを40年ぶりに掘り起こし、記念品を作成した当時の子ども達の手に戻りました。また、児童館の子ども達が30年後に向け記念品を作成し、新たなタイムカプセルにつめ、埋設しました。

多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討委員会からの主な意見

【令和3年度の評価について】

- ・取組状況や、コロナを踏まえた今後の展開など、各所管が考えて行動しているのが分かり、評価を上げていいのではと感じた。
- ・転入超過の数値目標は非常に達成が難しいものであり、難題にチャレンジしている。そのなかで、滞在人口率を高めることを達成するなど、転入超過を今後高めていくための基盤づくりが達成されていることは高い評価につながる。
- ・今回委員になり、市が様々な施策を実施していることを知った。ただ、興味を持たなければ知ることができないとも感じたため、これだけたくさんの方の施策を実施していることをPRする方法を模索して欲しい。
- ・地域の様々な人の協力を得て、すべての市民をサポートしていくような体制を築いていくことが、高齢者だけでなく次世代にむけた豊かな地域づくりになるかもしれないので、力を注いでいただきたい。
- ・多摩市の駅周辺には、看板や掲示板に地域の方々やNPO法人の活動内容の掲載がされているなど、地域の繋がりは強いと感じた。
- ・緑の多い多摩をPRするのであれば、多摩の木材を使って家具を作るなどを検討して欲しい。また、多摩市には農家もあるので、移動販売の活用とともに、地産地消のPRをして欲しい。
- ・若いアーティスト集団が多摩を拠点に活動したいと言っていたが、住宅の価格や間取りのマッチングが上手くいかずあきらめたと言っていた。そういった若い人たちのチャンスの芽を見出す施策を実施して欲しい。アートと福祉のつながりは注目される面もあるので、是非検討していただきたい。
- ・事業所が多摩市にあるものの、多摩市に住んでいる人は少ない。また、転職者も元々の生活基盤があるためか、なかなか多摩市に引っ越してはいない現状がある。多摩市に住んでもらうためには魅力発信などを進めていく必要があると感じた。

講評（多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討委員会 中庭 光彦 委員長）

今回の評価は、①2021年度(令和3年度)の数字が②2019年(令和元)につくった5年計画の目標数字に達しているかを、③2022年秋に評価したものです。コロナ禍前の計画に、コロナ禍最中の数字が合っているか、ポストコロナの今評価しているわけです。委員は、このズレを頭に入れ、この先の多摩市の人口減少の緩和を考えています。

まち・ひと・しごと創生総合戦略、別名「地方創生」の取組は、2014年度(平成26)から始まりましたが、この間、世の動きも変わりました。人口減少を国ではなく自治体で取り組む難しさや、東京一極集中はなかなか変わらないこともわかってきました。多摩市は東京一極集中の恩恵を受け、駅近に集合住宅も建っています。低い出生率を、転入者がカバーしています。東京都全体の人口も、2023年(令和5)1月増加に転じ、多摩地域の昨年12月の1ヶ月を見ると、多摩市・稲城市・小平市・羽村市は人口増加しています。国の人口は減る中、多摩市は東京一極集中の恩恵を受けています。この恩恵を受けている間に、まちの産業・生活・環境を考え直す必要があります。

現在、国は、地方創生政策とデジタル田園都市構想の一体化を進め、多摩市もまち・ひと・しごと創生総合戦略を、多摩市総合政策に含めることにしています。デジタル技術と人のネットワークを組み合わせ、いかに産業や生活の革新を生みだせるのが国の意図するところですが、多摩市としてこれにどう取り組むのか、大きな課題で、将来の人口にも影響を及ぼします。これまでのような「昭和・平成のベッドタウン多摩市」の常識に則っていたら、働きながら子育てし、暮らして、良い子どもの教育を受けさせようと思う人が、他の市を選ぶかもしれません。

幸いなことに聖蹟桜ヶ丘の開発は2024年(令和6)に姿を現す予定で、転入人口も増えるでしょう。委員会委員も、「こんな活動をしたい、こんな取組があれば多摩市はおもしろくなるのではないかと」将来を見据えたアイデアを出しています。ここに住み、はたらき、暮らす「魅力」について、アイデアを多摩市にぶつけてほしいと思います。

多摩市企画政策部企画課 令和5年3月発行

所在地: 〒206-8666 東京都多摩市関戸6-12-1 電話:042-338-6813 FAX:042-337-7658

多摩市公式ホームページ: <https://www.city.tama.lg.jp/> (詳しい情報はこちらからご覧ください。)

